

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム

日本民族分断阻止! 歴史戦セミナー

日本民族の統一史としての沖縄史

第5回: 展望開拓編(最終回)

「日本人の魂の故郷、沖縄」

令和元年

週末の部: **11**月**24**日(日) 14:00~
研修室2

3F 男女平等推進センター 研修室2

◎会場分担金+資料代=1,500円

平日の部: **11**月**26**日(火) 14:00~
研修室2

◎場所: **IKE・Biz** としま産業振興プラザ
(旧勤労福祉会館)

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム

理事長 仲村覚



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村覚
2019/11/24



一般社団法人
日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

講演会

香港の危機は沖縄の危機

第一部 「米中冷戦の正体未来の沖縄」

～香港デモの真実～

かわそえ けいこ
河添 恵子氏

ノンフィクション作家

1986年秋より中国(北京・大連)の2大学へ留学。
帰国後、中国や世界の学校・教育に関する100冊
以上の著書(40冊)を上梓。代表作は『中国人の
世界奪取り計画』(産経新聞出版・2010年刊)。
Amazon2部門で半年以上1位を記録。2019年7月
の新刊『米中冷戦の正体 脱中国で日本再生』
(馬淵睦夫ウクライナ大使との共著・ワニブックス)
もAmazon2部門で1位を記録更新中。
八重洲ブックセンター本店調べ、一般教養(7月
20日)において、週間ベストセラー1位、総合7位
を記録。さらなるディープインサイドを記した新刊
も12月(ワック出版)で予定されている



大好評発売中!
馬淵睦夫氏との対談本!



第二部 「香港の危機から学ぶ沖縄の保守活動」

～沖縄分断工作を防ぐ日本人としての誇り～



なかむら きよる
仲村 覚氏

日本沖縄政策研究フォーラム理事長
ジャーナリスト

昭和39年、那覇市生まれ。埼玉県在住。陸上自衛隊少年工科学校(横須賀)
入校後、航空部隊に配属。退官後の平成21年、沖縄が中国の領土地になると
いう強い危機感から民間団体「沖縄対策本部」(現日本沖縄政策研究フォーラ
ム)を設立し活動中。近著に『沖縄はいつから日本なのか』(ハート出版)

令和元年 **11月17日** 受付18:30 開演19:00 **聴講料500円**

場所 **浦添産業センターゆいの街3F**

〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客4丁目13-1

問合せ先 070-5410-1675(仲村)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

香港から沖縄の友人へのメッセージ

沖縄の皆様こんにちは、私はアンディー・チャンです。私は香港民族党の召集人です。香港で香港独立を提唱した最初の政党です。しかしながら私達の一団は（活動を）禁止されたので、私はただの「前」召集人です。まず、最初に沖縄の皆様にお伝えしたい事があります。香港の私達も大きな悲しみを感じています。先週起きた残念な出来事（首里城の火災）の事です。できるだけ早く遺産が元通りになりますように。あなた方の文化と歴史が保持できることを願っています。香港で独立を提唱する人間として、沖縄独立を求める人々の気持ちは理解できます。しかしながら、一つだけアドバイスがあります。「中国を信じないでください！」「中国共産党を信じないでください！」香港は今、一国二制度を20年以上経験して来ています。しかしながら皆様もよくご存知の通り、政府に対する抗議と抵抗が行われ、大勢の人々が警察の暴力によって負傷しました。これが私達が中国共産党を信用したツケです。これが私達が中国を信じたツケです。中国が大金を提供するかもしれないし（どうぞ）と持ちかけてくるかもしれませんが。潤沢な経営資源。それらに対して、あなた方がお金を払う必要はありません。しかしそれはあなた方の前払いのほんの一部に過ぎません。

そしてその後、甘い罠ですよ。たった一度でも受け入れようものなら、ジワジワと少しずつ主権を失う事になります。ジワジワと母国を失うことになります。最終的には国を丸ごと渡すことになります。だから中国は甘い罠なんです。奴らを信じてはいけません。私達は今街を取り戻すため、命をかけて代償を支払っているのです。自由を取り戻すために、私達の二の舞いにならないでください。中国の世話にはならないように、中国を信じないように、中国を当てにしないように。幸運を祈ります。沖縄の私の友人達へ、さようなら。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム

Okinawa Policy Research Forum of Japan

住民投票は「無責任体制」

自治基本条例廃止求める

村田春樹氏

石垣市の自治基本条例を廃止する議案が5月5日、市議会第2回定例会で開かれ「自治基本条例」に対する市民の意見が、市長の村田春樹氏に寄せられた。村田氏は、同条例で定められた住民投票制度に対し「無責任体制で、市長も議員も結局に責任を取らない」と指摘。同条例は「百害あって一利なし」と述べ、廃止すべきとの考えを示した。

石垣島への陸上自衛隊配備計画の賛否を問うた。対立は議会の中で議員がやればよい」と述べた。

自治基本条例の最大の問題点として、同条例で定める「市民」の範囲が広すぎることを挙げ「住民」は法律で定義されているが、自治基本条例は「市民」を勝手に定義している。外国人や、辺野古のテント村に暮らす人も市民になり、プロ市民が市政に介入するようになる」と疑問視した。

全国各都府県自治体の自治基本条例の制定が進んだ背景として「ベルリンの壁が崩壊して、ロシア型の革命が



自治基本条例をテーマに講演する村田氏（5日）

共産主義や社会主義が根付く。地方自治体を独立させて国家をひとつく

めの流れ」と説明。同条例が究極的には「自治体の憲法である」と言う。石垣市を憲法体制から引く張り出すことについて、村田氏は「百害あって一利なし」と指摘を示した。

い」と報告した。参加者との質疑応答では、同条例を廃止する議案を市議会に提出するよう求め「石垣島が日本でも最初に廃止した自治体になる。我々も安心して石垣島を見る」ことが可能になると述べた。

八重山日報

「腹を切る覚悟」に戦慄

かいま見た「貴公子」の素顔



「朝の会」創設一周年を記念して行われたパレード。右端は主催者の三島由紀夫（1944年）

朝の会元会員が語る 三島由紀夫（上）

戦後日本を代表する作家で、ノーベル文学賞候補でもあった三島由紀夫（1914-1970年）が、自ら創設した民間防衛組織「朝の会」の元会員の学生とともに陸上自衛隊の市ヶ谷駐屯地に立ち寄り、自決した事件から25日で40年。当時「朝の会」の最年少会員で、出席した三島由紀夫（左）と東京が八重山日報の取材に応じ、当時を振り返った。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

「朝の会」に入ったのは、昭和40年1月。大学のキャンパスで「三島由紀夫と自衛隊」についてと記された立て看板を見たと気がついた。僕は大学一年生だった。当時の学生運動が盛んで、大学に入ると看板は山ほどあったが、理由が分からない（これに）と口をふさぐ。

義烈空挺隊「顕彰を」

奥本氏が講演、県出身兵も

「空の神兵」顕彰会の奥本康大会長は9日午後、護国神社で講演した。沖縄戦で、米軍に占領された読谷飛行場を奇襲した日本陸軍の義烈空挺隊について説明し「国のため、家族のために命を賭して戦った英雄の志を語り継ぐのが、真の慰霊と顕彰だ」と訴えた。

読谷飛行場は、現在の読谷村役場と読谷中学校がある場所にあった。義烈空挺隊は同飛行場に輸送機を強行着陸させて米軍と戦闘状態に入り、大きな損害を与えた。同隊には沖縄県出身の隊員もいたという。



講演した奥本氏。義烈空挺隊を正しく評価し、沖縄を含めた日本を守った歴史を後世に伝えたいと意欲を見せた－9日午後、護国神社

戦後、有志の手で慰霊碑が建立されたが、村役場や中学校の建設などの影響で移設された。

奥本氏は正しく歴史を次世代に伝えるべきだとし、政治的思惑で建てられた案内板などが移設後の慰霊碑の周辺には多いと問題視。「働きかけで、是正したい」と述べた。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

沖縄を狙うチュチェ思想



YOUTUBE.COM

(新番組)『沖縄問題、真相の深層』第一回「沖縄を狙うチュチェ思想」
(前半)仲村覚 AJER2019.11.14(1)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

首里城は、沖縄県祖国復帰記念のために再建しよう！



YOUTUBE.COM

『沖縄問題、真相の深層』第二回「首里城は、沖縄祖国復帰の記念の為に再建しよう」(前半)仲村覚 AJER2019.11.21(9)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan



W OF FORMER KING'S CASTLE AT SHURI,
(村長館其宮ヒサア)



香港から沖縄の友人へのメッセージ

沖縄の皆様こんにちは、私はアンディー・チャンです。私は香港民族党の召集人です。香港で香港独立を提唱した最初の政党です。しかしながら私達の一団は（活動を）禁止されたので、私はただの「前」召集人です。まず、最初に沖縄の皆様にお伝えしたい事があります。香港の私達も大きな悲しみを感じています。先週起きた残念な出来事（首里城の火災）の事です。できるだけ早く遺産が元通りになりますように。あなた方の文化と歴史が保持できることを願っています。香港で独立を提唱する人間として、沖縄独立を求める人々の気持ちは理解できます。しかしながら、一つだけアドバイスがあります。「中国を信じないでください！」「中国共産党を信じないでください！」香港は今、一国二制度を20年以上経験して来ています。しかしながら皆様もよくご存知の通り、政府に対する抗議と抵抗が行われ、大勢の人々が警察の暴力によって負傷しました。これが私達が中国共産党を信用したツケです。これが私達が中国を信じたツケです。中国が大金を提供するかもしれないし（どうぞ）と持ちかけてくるかもしれませんが。潤沢な経営資源。それらに対して、あなた方がお金を払う必要はありません。しかしそれはあなた方の前払いのほんの一部に過ぎません。

そしてその後、甘い罠ですよ。たった一度でも受け入れようものなら、ジワジワと少しずつ主権を失う事になります。ジワジワと母国を失うことになります。最終的には国を丸ごと渡すことになります。だから中国は甘い罠なんです。奴らを信じてはいけません。私達は今街を取り戻すため、命をかけて代償を支払っているのです。自由を取り戻すために、私達の二の舞いにならないでください。中国の世話にはならないように、中国を信じないように、中国を当てにしないように。幸運を祈ります。沖縄の私の友人達へ、さようなら。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム

Okinawa Policy Research Forum of Japan

「唐破風」という日本式建築

唐破風とは曲線を連ねた形状の破板を屋根付つけたもの。

【首里城】



【東大寺大仏殿】



【仏教の寺院】



【道教の寺院】



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

首里城の大龍柱の向き

作成：一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム
仲村寛

沖縄神社になる前の首里城

沖縄神社

復元首里城

正面を向いている

内側を向いている

内側を向いている

仲村にしろた
め、龍形に似
せて内向きに
したのであ
らうかと



首里城の瓦は黒かった

ブログ「目からウロコの琉球・沖縄史」
(琉球歴史研究家 上里隆史氏) 参照

<首里城発掘で黒く加工された赤瓦発見>

- ◎ 首里城の大奥に当たる御内原(おうちばる)という地点から、黒く塗られた赤瓦がいくつも見つかった。
- ◎ マンガンという黒色の鉱物がうわぐすり(釉)として塗られていた。

<沖縄の瓦の歴史>

- ◎ 琉球にはもともと赤瓦は存在していなかった。
- ◎ 高麗系瓦やヤマト系瓦など灰色や黒色の瓦しかなく、瓦自体もそれほど一般的ではなかった。
- ◎ 近世(江戸時代)以前は首里城の正殿は瓦ぶきではなく、ヤマト風の板ぶき屋根だった。
- ◎ 18世紀頃になると、琉球でも瓦ぶきの建物がどんどん造られていき、瓦を大量生産しなくてはならなくなり、手間ひまをかけて製造することができなくなった。
- ◎ その結果、丁寧に焼いて造られる灰色や黒色の瓦ではなく、コストのかからない赤瓦がたくさん造られた。
- ◎ 赤瓦は最初からそれを造ろうとして生まれたのではなく、粗製乱造の結果、生まれた。

<赤瓦を黒く塗っていた理由>

- ◎ 灰色・黒色の瓦しかそれまで存在していなかったため、赤瓦は当時の琉球の人々には非常に不恰好で粗悪なものに見えた。
- ◎ 困った人々は赤瓦をわざと黒く塗って、当時の人たちが考える「本来の瓦」のように見せかけたのではないかと考えられる。

首里城を救った薩摩

【球陽】 [附卷0094] 【薩州の太守、白銀を発賜して饑乏たる民人を済ふ。】旧年の夏秋、颶風七次あり。十月に至りて、颶風最も暴し、国、大いに饑饉を致す。王、即ち倉廩を発し、周く人民を済ふ。然れども、春に入り、饑甚だしく、民已に餓殍す。遂に其の事、薩州に聞ゆ。是れに由りて、薩州太守吉貴公、白銀二万両を寄賜して、以て本国の餓乏を賑濟せしむ。

【球陽】 [附卷0096] 【薩州太守、材木を寄賜して、以て宮殿の修造を補ふ。】先年、王城回祿し、將に宮殿を修造せんとす。而して材木欠乏す。今、疏文を具し、薩州に求買す。是れに由りて、薩州太守吉貴公、材木壹万九千五百二十五本を寄賜して、以て禁城宮殿の修造を補ふ。

- ◎ 祖国復帰20周年で復元された首里城の資料は、昭和の大修理で先人が残した資料をもとに行われました。その首里城は、1709年に失火で焼失し、1712年から3年かけて再建された首里城です。
- ◎ 当時の琉球国は国が滅びけけるほどの国難に遭遇していました。
- ◎ 在位41年の尚貞王が亡くなり、その後、相次いで台風に遭遇し、作物を吹き飛ばした後に、今度は干ばつがに遭遇し飢饉に喘いでいたのです。
- ◎ そのような中で、首里城が炎上してしまったのですが、餓死者が続出し、盗賊が増え、治安が乱れたため、首里城再建どころではありませんでした。
- ◎ そのような時、薩摩は琉球に救援米3000石を貸与。更に、銀200貫、続いて白銀2万両を送ります。更に、薩摩は、いつまでも立っても再建されない首里城をみかねて、材木19,525本を寄賜したのです。
- ◎ これにより、江戸時代の首里城再建は可能になったのです。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

年(令和元年)11月10日 日曜日 1版 聯合 (2)

首里城
識者の見方
再建

「日本の中の沖縄」を懸念

県民・県人主体の復元を

再建の主体が県に在りたらないか。もしも里債再建を愛媛本県のなすこと、特長は「前知事」が選んだ際に3月にも会ったことがあった日本文府がいち早く全権委任書を出したことを考慮し、愛媛道の在り方は地域の現実と照らし、どう受け止めるかを農民が考える時期に来ている、けれども各自治体の別々のめざらなければならない」と深く聞



吉川 清二氏

民衆の城取り戻す事業に

国は戦争の贖罪意識必要

財政上の責任がある。金
財などの費用も出る。
県は2月1日の管理体
にいて「移転した管理
法を確かならなく、
て経費削減がある。は
を」といふとの立
をこつており、県の責
制の検証も必要となる。

前日、県政執行、政府
前日、県政執行、政府
と早期の再建を表明。安
官政府とは「責任を財
て主力で取り込む」と述
ており、今後、再建を

財政再建を断る。2月1
官政執行の経緯を、日
閣議で決めた。2月1
閣議で決めた。2月1

かつては、辺野古移設や米海兵隊のオスプレイ配備を利用して、県民を扇動しオール沖縄の反米闘争体制を構築されてしまいました。

そして、今回は首里城を利用して、オール沖縄の先住民族の権利獲得闘争に沖縄県民を巻き込もうとしています。

いろいろな議論はありますが、それを集約して「県民主体」という言葉を最大公約数のオール沖縄のスローガンにして

沖縄VS日本政府の対立構図をつくろうとしています。

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

／ あなたもなれる？ みんなで“アイヌ”になろう？ PART2 ／

討論会 アイヌ新法が なぜ問題か？ in北海道



司会進行

小野寺 秀氏

キャスター、元北海道議員

北海道の外国資本による土地の
買い問題、アイヌ政策、NPO等
での不正詐欺問題、太陽光発電
政策問題、国防・安全保障等多
岐にわたり発言し発信中。



登壇者

的場 光昭氏

医師、『科学的アイヌ先住民族』著者

医療法人健光会理事長。日常診
療の傍ら執筆活動をしている。
著書に『科学的アイヌ先住民族 その真
実』『アイヌ先住民族、その不都合
な事実』などがある。



登壇者

篠原 常一郎氏

ジャーナリスト、リベラル系思想家、元北海道議員

2004年共産党脱党後、軍事評論
家として『古き三巻』のペンネー
ム、YouTuberとして戦後左翼運動
とテロ思想の関わりを暴き発信
している。



登壇者

仲村 覚氏

ジャーナリスト、日本沖縄政策研究フォーラム理事長

1998年自衛隊退官。2009年チャイ
ナの沖縄工作阻止のために民間団体
「沖縄防衛本部」を設立。現在、沖縄
問題の第一人者として、沖縄独立論へ
の対策等、沖縄の歴史戦に取り組む。

日時 令和元年11月30日(土) 開場18時15分 開始18時半

場所 札幌市厚別区民センター 2Fホール
札幌市厚別区厚別中央1条5丁目3-14

会費 1,000円(学生無料 ※学生証をご提示下さい)

主催 アイヌ問題検討委員会(日本会議北海道本部)
URL: <http://www.nipponkaigi-hokkaido.org/>
Mail: nippon.khh@gmail.com
TEL: 011-209-3022 FAX: 011-209-3023

取材 報道機関の取材は事前申込をお願いします。



参加申込

どなたも参加できますが、資料・懇親会等の人員把握のため
下記をFaxもしくはmailでご連絡ください。会費は当日受付にてお支払ください。

お名前

TEL/mail

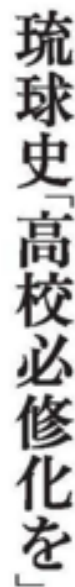
ご住所

懇親会 出席 欠席



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan



沖国大経済学部 県教委に要請

日、県教育庁県立学校教育課の玉城学課長に要請文を手渡した。写真。同学部は2021年度の一般選抜試験で新たに「琉球・沖縄史」を選択科目として導入する

要請文は「沖繩の未来を担う人材あるいは沖縄発・万国津梁の先駆けとなる人材の育成には、自らの足元の歴史・文化を理解することが不可欠」と強調。現在は各校の任意となっているため、科目設置は県立60校中28校にとどまっていると指摘した。

学校マスコミが絶対教えない 首里城の歴史 ～首里城を救った男たちのドラマ～



【会場地図】



〒171-0021
東京都豊島区西池袋2-37-4
IKEBIZ 3F 男女平等推進センター
研修室2
(池袋駅西口より徒歩約10分、南口より約7分)

◎場所: IKEBIZ としま産業振興プラザ
(旧勤労福祉会館) 3F 男女平等推進センター
◎会場分担金+資料代=1,500円

<週末の部>

令和元年 **12月18日(水)** 14:00～
研修室2

<平日の部>

令和元年 **12月18日(水)** 18:30～
研修室2

■講師 仲村 覚 (一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム理事長)

昭和三十九年、那覇市生まれ。埼玉県在住。昭和五十四年、陸上自衛隊少年工学校(横須賀)入校。卒業後の航空部隊に配属。複数の企業勤務を経て日本は沖縄から中国の植民地になるという強い危機感から活動を開始し、平成29年には一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラムを設立。当法人は、中国共産党の仕掛ける沖縄の歴史戦と本格的に戦う唯一の組織。著書に「そうだったのか! 沖縄」(示現社)、「沖縄の危機」(青林堂)、「沖縄はいつから日本の心(ハート)出版」がある。ビートたけしのTVタックルに出演。新聞雑誌等に沖縄問題の第一人者として論文を寄稿多数。



「チュチェ思想」から国民を守る会

設立準備シンポジウム

令和元年 **12月24日(金)** 会場: IKEBIZ としま産業振興プラザ
(旧勤労福祉会館)
6F 多目的ホール(最大250名収容)
受付:18時 開演:18時30分
◎参加費 1,500円

第1部 ■リレー講演

「日本の要所に潜むチュチェ思想研究会」

篠原常一郎氏 (元共産党国会議員秘書・軍事ジャーナリスト)

「主体思想の本質とは」

岩田温氏 (政治学者)

「沖縄県人を先住民族にした真犯人」

仲村 覚 (一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム理事長)

第2部 ■パネルディスカッション

「チュチェ思想からどうやって日本を守るか？」

パネリスト: 岩田温氏、篠原常一郎氏、仲村 覚

【講師プロフィール】

篠原常一郎氏



昭和35年生まれ。立教大学文学部卒。日本共産党で筆坂秀世氏の秘書を務めたが、平成16年に日本共産党を脱退。現在、大和大学政治経済学部政治行政学科専任講師。近著に『偽善者の見破り方』『イースト・プレス』『リベラル』という病 奇怪すぎる日本型反知性主義(彰図社)等がある。

岩田 温氏



昭和58年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。同大学院修士課程修了。現在、大和大学政治経済学部政治行政学科専任講師。近著に『偽善者の見破り方』『イースト・プレス』『リベラル』という病 奇怪すぎる日本型反知性主義(彰図社)等がある。

仲村 覚氏



日本沖縄政策研究フォーラム理事長、ジャーナリスト。昭和39年、那覇市生まれ。埼玉県在住。昭和57年、陸上自衛隊少年工学校卒業。平成28年、日本沖縄政策研究フォーラムを設立。近著に『沖縄はいつから日本なのか』(ハート出版)がある。

【会場地図】



東京都豊島区西池袋2-37-4
IKEBIZ 6F 多目的ホール

協賛:



代表的な沖縄の歴史書

【琉球神道記】

琉球神道記（りゅうきゅうしんとうき）は琉球王国に渡った倭僧の袋中良定が著した書物である。神道記と題しているが、むしろ本地垂迹を基とした仏教的性格が強い書物となっている。また、薩摩藩が侵攻する以前の琉球の風俗などを伝える貴重な史料でもある。袋中による自筆稿本は京都府の袋中庵が所蔵し、国の重要文化財に指定されている。

【中山世鑑】

『中山世鑑』（ちゅうざんせいかん）は、薩摩支配下において書かれた琉球国の初めての正史である。羽地朝秀が王命により編纂。1650年成立。全6巻。和文体で書かれている。和暦の採用や、源為朝（鎮西八郎）が琉球に逃れ、その子が琉球王家の始祖舜天になったとする（『琉球神道記』、『保元物語』、『平治物語』などを参考にしたと見られる）記述がある。為朝が琉球へ逃れ、その子が舜天になった事の実偽は不明だが、正史として扱われており、この話がのちに曲亭馬琴の『椿説弓張月』を産んだ。この話に基づき、大正11年には為朝上陸の碑が建てられた。表側に「上陸の碑」と刻まれて、その左斜め下にはこの碑を建てることに尽力した東郷平八郎の名が刻まれている。また、鎌倉幕府が建てた京都・建仁寺の文献にも「源為朝が琉球に渡り建国の主となる」と書かれている。

【歴代宝案】

歴代宝案（歴代寶案、れきだいほうあん）は、琉球王国の外交文書を記録した漢文史料。1集49巻、2集200巻、3集13巻、目録4巻、別集4巻の全270巻からなるが、現存するのは1集42巻、2集187巻、3集13巻、目録4巻、別集4巻の計250巻である。

【中山世譜】

『中山世譜』（ちゅうざんせいふ）は、琉球王国の代表的な歴史書のひとつである。漢文で書かれた歴代国王の伝記を中心としており、中国との関係を中心にまとめた部分（正巻）と、薩摩藩など日本との関係を中心にまとめた部分（附巻）とに分かれている。1697年に蔡鐸が中心となって編纂がはじまり、『中山世鑑』を漢文に訳し部分的に修正して、1701年に完成した。これを蔡鐸本と呼ぶ。天孫氏に始まり、舜天王から尚益王までの事績が記載されている。正巻5、附巻1（原文には「附巻」と明記されていない）に加え、尚豊王の子2人の伝を収める附巻1から成っている。のちに蔡鐸の子の蔡温が加筆、修正をほどこし、さらに王府系図座によって編纂が継承され、尚泰王までの事績をまとめた。これを蔡温本と呼び、現在用いられているテキストはこれによる。正巻13、附巻7から成る。蔡鐸本は紛失していたが、1972年（昭和47年）の調査により沖縄県立博物館所蔵の蔡温本に混入しているのが発見された。

【南島志】

『南島志』は、六代将軍徳川家宣に仕えた新井白石が、国際的視野から、わが国にとって将来外交問題が起るべき地域として、蝦夷と琉球に注視していたのであるが、宝永七年（一七〇〇）に、美里朝禎と豊見城朝匡の両王子と、正徳四年（一七一四）に、与那城朝直と金武朝祐の両王子、知念朝上と勝連盛祐の両親方、それに程順則、玉城朝薫、曾信らの琉球使節と面談して確認した情報と、薩摩藩から聴取した情報を取り入れ、わが国の歴史と、中国の文献の双方から考察を加えて、書き上げた（1719年）ものである。

【球陽】

『球陽』（きゅうよう）は、1743年から1745年にかけて琉球国の正史として編纂された歴史書である。

王統	琉球国王
天孫氏	125代、1万7802年間、舜天王即位の前年まで
舜天王統	舜天1187-1237 / 舜馬順熙1238-1248 / 義本1249-1259
英祖王統	英祖1260-1299 / 大成1300-1308 / 英慈1308-1313 / 玉城1313-1336 / 西威1336-1349
察度王統（中山王国）	察度1350-1395 / 武寧1396-1405?
帕尼芝王統（北山王国）	帕尼芝1322?-1395? / 珉1396?-1400 / 攀安知1401-1416
大里王統（南山王国）	承察度1337?-1396? / 汪英紫1388-1402? / 汪応祖1403?-1413? / 他魯每1415?-1429
第一尚氏王統	尚思紹王1406-1421 / 尚巴志王1422-1439 / 尚忠王1440-1444 / 尚思達王1445-1449 / 尚金福王1450-1453 / 尚泰久王1454-1460 / 尚徳王1461-1469
第二尚氏王統	尚門王1469-1476 / 尚宣威王1477 / 尚真王1477-1527 / 尚清王1527-1555 / 尚元王1556-1572 / 尚永王1573-1588 / 尚寧王1589-1620 / 尚豊王1621-1640 / 尚賢王1641-1647 / 尚質王1648-1668 / 尚貞王1669-1709 / 尚益王1710-1712 / 尚敬王1713-1751 / 尚穆王1752-1794 / 尚温王1795-1802 / 尚成王1803 / 尚灝王1804-1834 / 尚育王1835-1847 / 尚泰王1848-1872



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村 覚

2019/11/24

昔々、天城に阿摩美久^②という神がおられた。天帝が阿摩美久を召し出して仰せになるには、
 「この下に、神が住むべき霊地がある。だが、未だに島と成っていないので、口惜しいことだ。そなたは天降りして島を作りなさい」と下知された。
 阿摩美久はかしこまって降臨したところ、霊地には見えだが、東の海の波は西の海に越え、西の海の波は東の海に越えて、いまだに島には成っていない。それで、阿摩美久は天へ上り、
 「土石や草木を給われれば、島を作り奉ります」と奏した。天帝は御感じあつて土石や草木を給わたので、阿摩美久は土石と草木を持って降り数々の島を作った。
 まず、一番に国頭に辺土の安須森^⑨、次に今帰仁のカナヒヤブ^⑥、次に知念森^⑦、齊場御獄^⑧、藪薩の浦原^⑩、次に玉城アマツ^⑪、次に久高コバウ森^⑫、次に首里森^⑬、真玉森^⑭、次に島々国々の嶽々森々を作った。
 それから数万年を経たが、人は居らず、神の靈威も顕示されようもないので、阿摩美久は再び天に上り、人の種子を乞われた。天帝は、
 「そなたも知っていると思うが、天に神は多しといえども、下界に降ろせる神がない。だからと言って、黙って見ているわけにはいかないのだ」と仰つて、天帝の御子の男女を降臨させられた。二人は体の交わりはなかったが、居所が並んでいたのので、往來の風を縁にして女神はご懐妊され、遂に三男二女をお産みになられた。
 長男は国の主の始まりである。これを天孫氏と号した。
 二男は諸侯の始まり、三男は百姓の始まり、長女は君々の始まり、次女はノ口の始まりである。これ以降、夫婦の婚姻の礼は始まったのである。

- ① 天城『琉球神道記』は天帝の存在について記しておらず、シネリキヨとアマミキヨが「天」から下つたとしている。
- ② 阿摩美久創世神アマミキヨに漢字を作つたものである。付言すれば、アマミの人を意味するアマミコは琉球語の三母音化、先行母音による口蓋化によつて、アマミ・コレアマミ・キヨ↓アマミ・キユ↓アマミ・チュ↓アマン・チュ、などと変化していつたのであろう。うるま市勝連浜比嘉島には、アマミチュの墓と伝わる洞窟がある。
- ③ 天帝天の最高神で万物を創造して支配する。
- ④ 島このように述べる島作りの内容からすると、島とはいわゆる地理的な意味での島ではなく、琉球では集落や地域をシマと表現することから、ここでは集落の根本的な存在と観念される御嶽を指してシマと表現していると考えられる。
- ⑤ 国頭に辺土の安須森 国頭村の北端に位置する辺土岳のこと。雄大なカルストタワーが四連となつて偉容を誇る。『琉球神道記』には「国上の深山にアフリというものが現れる山をアフリ岳と云う。五色鮮潔で種々莊嚴なり。三つの岳に三本なり。一山を覆い尽くす」と出ている。
- ⑥ 今帰仁のカナヒヤブ『琉球国由来記』では「城内上之嶽神名テンツギカナヒヤブノ御イベ」と記される。後掲尚巴志王紀で、山北王が自刃の時に宝剣千代金丸で斬りつけた岩のこと。
- ⑦ 知念森南城市知念に所在する知念城跡一帯の聖域のこと。城跡は切り立つた崖の上にあつて遙かに海を見渡せる。『おもろさうし』には「ちねんもりくすくあまみきよがのだてはじめのくすく」と出ている。
- ⑧ 齊場御嶽南城市知念に所在する聖地。聞得大君の即位おあらお式である御新下りの儀式が行われたといふ第二尚氏王朝時代最高の聖地。また、国王の行幸である東御廻りの経由地の一つ。セーファウタキと発音する。
- ⑨ 数薩の浦原南城市玉城の海岸から国道三三二一号にかけての雑木林にまで広がる聖地。森の中の小道を塞ぐように数薩御嶽がある。あがりうまい。
- ⑩ 玉城アマツ南城市玉城の玉城城跡に所在する聖地。天の頂、若しくは雨粒アマツを意味するという説もある。
- ⑪ 久高コバウ森知念半島の東に浮かぶ久高島に所在する聖地。フボー御嶽という。この島で十二年に一度行われていたイザイホーの祭は有名である。
- ⑫ 首里森那覇市首里の首里城に所在する聖地。奉神門のほぼ正面にあつた。次項の真正和、もろさうし』で頻出する御嶽。復元されている。
- ⑬ 真玉森正殿南西側の京の内という区画にあつた。前項参照。後掲尚門王紀において、この聖地で尚徳王の世子が殺害されたと語る。
- ⑭ 島々国々の嶽々森々御嶽や森というのは各村に一つ以上は存在している村の聖地である。
- ⑮ 君々神が寄りつく神女のことである。高級神女。
- ⑯ ノ口中央首里の君々が大神女聞得大君に仕える高級神女とすれば、ノ口は中央の高級神女に仕える地方神女である。

琉球開闢七御嶽

•安須森御嶽（あすむいうたき）：国頭村辺土



•雨つづ天つぎ御嶽（あまつづてんつぎうたき）：南城市玉城、玉城城内



•菽薩御嶽（やぶさつうたき）：南城市玉城



•クボウ御嶽：今帰仁村今帰仁城内



•クボー御嶽（くぼーうたき）：南城市知念（久高島）



•首里真玉森御嶽（しゅいまだむいうたき）：首里城内



•斎場御嶽（せーふあうたき）：南城市知念



守護の神も出現された。キミマモノと称し奉っている。キミマモノには『陰陽の二神がある。オボツカグラの神とは天神である。ギライカナイの神とは海神である。次に二神の由来を大方明らかにすると、まず、キミテヅリとは天神である。国主が位を継承すると、一代に一度出現して、国主の万歳の祝福をされる神である。十四日間の託遊で、ヲモロはその時の託宣である。新懸とは海神である。五年或いは七年に一度出現する。三司官から諸官庁の長に至るまで、心が素直で、敬い信ずる者の家々には現れて祝福をし給うが、心が奢り邪な者の家には現れず、その上、常々の悪行をつぶさに並べ立て刑罰をお加えになられた。これも十四日間の託遊である。荒神とは海神である。これは、末世となり不仁乱逆の者達が世に出てくると、三十年や五十年に一度現れて刑罰を与えて、ゆがんだ者を正しくされた。これも十四日間の託遊である。奥に現れ給うので、俗に奥のミヲヤダイリという。これは密かに思うに、舜が四兇族を誅し、孔子が少正卯を誅したように、公平で厳しい措置を取る、ということなのである。浦マワリとは天神である。これも国王一代に一度現れて、浦々を巡り、国家を守護する神である。思うに、これは聖人が巡狩するという意味があるのだろうか。与那原のミヲヤダイリとは陰陽を兼ねる神である。これは聞得大君が初めて託宣される時の託遊である。これも又十四日間である。与那原に現れ給うので、与那原のミヲヤダイリと言う。月のミヲヤダイリとは天神である。月に一度現れて、国家を護持し国王を祝福される。一日の託遊である。カナイノキミマモンとは海神である。春三月、夏六月、秋九月、冬十二月の年に四度現れる。国家長久を護持して、又は国王を祝福される神である。一度に七日間の託遊なので、七つのミヲヤダイリとも言う。

- ① キミマモノ『琉球神道記』に「守護の神現れキンマモンと称す。この神は海底を宮とする。毎月現れて神託があり、所々の拝林に遊び給う」とある。
- ② オボツカグラの神『琉球神道記』に「キンマモンに陰陽の二神あり。天より下り給うをギライカナイノキンマモンと称して、海より上り給うをオボツカグラノキンマモンと称す。全て弁才天なり」と出ている。『世鑑』では、オボツカグラを天神、ギライカナイを海神としており、逆である。蔡露本『中山世譜』も『世鑑』の記述を引き継いでいる。或いは、『琉球神道記』の記述が古形を伝えているのかもしれない。
- ③ ギライカナイの神前項参照。現在、東方の楽土と解されているニライカナイの古形であろう。
- ④ キミテヅリ『琉球神道記』に「又新神出給う。キミテヅリと申す。現れる前に国上の深山にアヲリと云う物が出現する。その山をアヲリ岳という」と出ている。キミテヅリを神と誤解したのは袋中で、その誤りをそのままでも踏襲している。キミテヅリは神名ではなく、祭式の名称である。
- ⑤ 十四日間原文「二十七日」は十四日間のこと。
- ⑥ 託遊神が神女に憑依して祭式(神遊び)を行うこと。
- ⑦ ヲモロ琉球史料叢書では「ヲモル」と表記されている。また、『琉球国神道記』は御唄と表記してオモリとルビをふつている。守護の神キンマモンが現れるときに唱う唄とされている。全土(インド)の唄の如しと記述している。「全土の唄」とは梵唄ボンバイのこと、法会などの声明シヨウミョウの一種。
- ⑧ 託宣神のお告げのこと。
- ⑨ 新懸『琉球神道記』に「七年一回の新神は二十七日の御託なり。遠海諸嶋僉議なくして同日同時の出現なり」と出ている。また、原文では「敬神アル者ノ家々ハ来格有テ寿ヲシ給ヘケルカ」とあり、琉球史料叢書では「敬神アル者の家々ハ来格有テ寿ヲシヘケルヤ」とある。来格という言葉は無いので、同書の校訂者の誤りであろう。同様にカをヤと読んだのであろう。
- ⑩ 荒神『琉球神道記』に「一紀一回の荒神も又二十七日を期とす」と出ている。
- ⑪ ゆがんだ者を正しくした原文「使諸枉者直諸の枉れる者を直にならしめた」の典拠は『論語』顔淵。
- ⑫ 奥原文「ワウ」。蔡露本『中山世譜』では奥と漢訳され、原田禹雄氏は奥を地先の小島のことと考えている。
- ⑬ 四兇族 原文「舜誅四兇」の四兇とは帝鴻氏、少皞氏、顓頊氏、緡雲氏の不才子のこと、舜は堯の摂政となつて、四兇族を辺境の地に配流した。典拠は『史記』五帝本紀第一。
- ⑭ 孔子が少正を誅した原文「孔子誅少正卯」は、孔子が魯の宰相となつたとき、国の大夫で国政を乱していた少正卯を殺したら、魯の国が政治が良くなったという故事。典拠は『史記』孔子世家。
- ⑮ 公平で厳しい措置を取る原文「能愛人能惡人よく人を愛し、よく人を惡む」は『大学』傳十章にある。
- ⑯ 浦マワリ『混効驗集』にウラマハリは「浦々巡行之事を云」と出ている。
- ⑰ 浦々 海岸沿いの村々のこと。
- ⑱ 巡狩天子が諸侯の国の政情を見まわること。
- ⑲ 与那原のミヲヤダイリミヲヤダイリは蔡露本『中山世譜』は「公事」と漢訳されている。与那原町の浜で行われる公事のことであるが、現在に理め立てられて当時の面影を残していない。
- ⑳ 聞得大君 君々の頂点に立つ最高女神官。初代の聞得大君は第二尚氏王朝の始祖尚円の娘オトチトノモイカネである。
- ㉑ 月のミヲヤダイリこの神は『琉球神道記』に記述はないが、或いはキミマモンそのものであるうか。
- ㉒ カナイノキミマモン 前掲のギライカナイの神であろうか。「おもしろさうし」にはミルヤ、ニルヤの同義語として頻出している。神女である。

当初人々は、野の穴に暮らしてお互い助け合い、妬みの心は無かったが、穀物を植える事を知らず、草木の実を食べていた。また、火を使うことは無く、獣の血をすすりその毛を食べて暮らしていたので繁栄は難しかった。ここで阿摩美久は天に上り、五穀の種子を乞うて、麦、粟、豆、黍の数種を初めて久高島にお疇きになった。稲は知念大川の後ろ、また玉城ヲケミゾに植えらた。そうであつたから、麦は春に、稲は夏の初めに熟したので、まず天神地祇を祭るため七日間をつつしんで、三日間を清めて祭れば、天神地祇も喜びのあまりに現れ給い、初めて祝福された。

今、各地で行われている春夏四度の祭神の始まりである。二月の久高への行幸、四月の知念、玉城への行幸も、これより始まったのである。五穀の祭神とは、根本に立ち返ってその恩に報いる大祭なのである。敬うべきものである。我が朝が神の国というのは、これらの事に依っているのだ。

密かに思うに、往古の人の心は誠実で邪心が無く、在すが如く心から敬い慎むだけであつたからであろうか、異国の賊船が襲来すれば、或いは大風を吹かせ、或いは水を塩となし、米を砂となして敵を防ぐ。

今は世の風俗も軽薄になり、人の心も香りたかぶつてよこしまとなり、祖先の霊をおがむこともないがしろにして、その上、神事祭事も怠けおこたり疎かになったためか、守護の神も現れ給うことがない。これよって、天災がしきりに起こって、飢饉で衰え弱ることが多くなった。上下万民の苦は言うに堪えないものであつた。

天孫氏の二十五代はその姓名を今に知ることができないため、これを略する。乙丑に始まって、丙午に終わった。およそ一万七八〇二年であつた。

今の玉城を首里城というのは、昔天孫氏が初めて天から降臨して、あまねく諸国を巡り、城を築く地を選ばれたところ、今の玉城の地が最も優れていたもので、初めて経営して城を築かれたから首里というのである。

天孫氏二十五代の御代に、異国隋の場帝が利欲に飽きたりずに、中国の宝物を掠め取るだけではなく、数千万艘の船を造つて密かに異国を探し求めさせた。この時、隋の使者羽騎尉の朱寛が初めてこの国に至つた。波濤の間からこの地を見れば、虬龍（きゅうりゅう）が水に浮かぶ如くだったので、これによつて、隋人は我が朝を琉虬（りゅうきゅう）と名付けた。

しかし、異国隋の人は初めて来島したので、言語も通ぜず、使者もどうにもならず、男一人を捕虜にただけで帰国してしまつた。

その後数年を経て、捕虜にした男がようやく中国の言語を理解したので、これを通事にして、武貴郎将（ぶぶんろうしょう）の陳稜を大將に、数方の兵船を派遣して攻め立てた。だが、琉虬人は従わなかつたので、男女五百人を捕虜にして帰国してしまつた。これ以降、往来は途絶え、唐、宋の時代に至るまで交流はなかつた。

その後天孫氏の治世は衰えたので、諸侯は叛く者が多かつた。逆臣利勇（りゆう）が主君を紙逆し位を篡奪してしまつた。その頃尊敦は浦添按司だつたが、徳を修めて民を統治すること昔の有熊（ゆうゆう）氏の如くだったので、諸侯は皆尊敦に帰順した。遂に仁義に反する利勇を討伐して、宝位に昇つた。これが舜天王である。

① 久高島知念半島の東に浮かぶ島。

② 知念大川チネンウツカーという。前掲知念森の西方に位置する。本文ではこの「ウツカー」の後ろ、又玉城ヲケミゾに稲を植えた」としてある。これはウツカーの後ろの玉城ヲケミゾに植えたとも読めるが、両者は位置的に離れているので、ウツカーの後ろと玉城ヲケミゾの両方に植えたことと読むべきであろう。知念大川の後方にはウツアカルという水田がある。

③ 玉城ヲケミゾ 南城市玉城の海岸近くにある聖地。現在も水田があり、受水という湧き水が御穂田へ、走水が親田に流れ込む。

④ 二月の久高への行幸歴代国王は一年おきに久高島に参詣したが、「世」が編纂された約四半世紀後、向榮資によつて廃止された。

⑤ 四月の知念、玉城への行幸項の久高島への行幸に引き続き、国王は四月に知念、玉城へ参詣した。東通りといつたが、向象賢によつて廃止された。

⑥ 根本に立ち返つてその恩に報いる原文「報本返始」は『礼記』郊特性の報本反始からの引用であろう。

⑦ 丙午 南宋の海、十三年（二八六）のことである。則ち昇天の即位の前年まで天孫氏の王朝が続いた、としている。

⑧ 初めて経営して城を築いたので古里首里の語源を説明している。首はハジメ、里はサト村の意で、即ち首里とは初めての城邑である」と記述している。しかし、元タシユリ若しくはシユイという何らかの意を持った音に後世たまたま西里と英字をあてたのであろうから、向象賢の説明は逆であろう。

⑨ 琉虬 虬とは想像上の動物での子で角があるという。また、うねる様を表す。夏子陽の「使琉球録」を引用した総説の原文は「地界異聞述而望之塔旋成城若丸浮水中故因以名」とあり、これは「夏子陽の使のそのままであつて、血の文字は見えるが龍の字は見えない。しかし、この部分の原文には「黄薄間ヨリ、此地ブルレバ、乱部ノ水中ニテガ如シ、席人、流此トハ名付ル也」とあり、幅は向象賢が付加したものであろう。

⑩ 通事 通訳のこと。

⑪ 有熊氏 五帝の一人、黄帝の号である。

本来、神社に社殿はなかった

<神社-起源(wikipedia)より>

神社の起源は、磐座（いわくら）や神の住む禁足地（俗に神体山）などでの祭事の際に臨時に建てた神籬（ひもろぎ）などの祭壇であり、本来は常設ではなかった。例としては沖縄の御嶽（ウタキ）のようなものだったと考えられる。

創建が古い神社には現在も本殿がないものがあり、磐座や禁足地の山や島などの手前に拝殿があるのみの神社、社殿が全く無い神社がある。「神社には常に神がいる」とされたのは、社殿が建てられるようになってからだと言われる。

<神社建築-概要(wikipedia)より>

本殿は神がいるとされる神聖な場所であるため、瑞垣などで囲われたり、覆屋が造られ、普段はその内部をみられないことが多い。一部の神社では山や岩を神体として崇めるため、本殿を持たず、神体を直接拝むための拝殿のみがあるところ（大神神社・金鑽神社など）や拝殿も持たない（檜原神社や湯殿山神社）ところもある。このように、社殿のない神社が本来の形式であったと考えられる。

<残存例：日本最古の神社花の窟（はなのいわや）神社>

神々が眠る日本最古の地・花の窟花の窟は、神々の母である伊弉冊尊（イザナミノミコト）が火神・軻遇突智尊（カグツチノミコト）を産み、灼かれて亡くなった後に葬られた御陵です。平成16年7月に花の窟を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。

花窟神社（花の窟神社）は日本書紀にも記されている日本最古の神社といわれており、古来からの聖地として今に続く信仰はあつく、全国から多くの参拝者がお越しになります。花の窟では年2回、例大祭を行います。神々に舞を奉納し、日本一長いともいわれております約170メートルの大綱を岩窟上45メートル程の高さの御神体から境内南隅の松の御神木にわたします。この「御綱掛け神事」は、太古の昔から行われており「三重県無形文化指定」されています。（世界遺産花の窟より）



語り継がれた為朝伝説

【南島志】（新井白石）

四百二十八年ののち、王がその国を担当した。これより先、保元の乱（一一五六）で、故將軍の源朝臣義家の孫の廷尉の義の子の感朝は、伊豆大島へ流された。平家が政権をほしいままにするようになって、朝廷の政治は日々におとろえた。常にいきどおりながら、祖先の偉業を回復しようとして、海上に浮んで、諸島の地を攻略し、遂に南島に至った。為朝は生れつき体が大きくたくましく、力は抜群で、臂が長くて弓の名手であった。南島の人はみな（為朝を）神として帰服せぬ者とはなく、そこでその地をめぐってから（伊豆大島に）もどった。居ることいくばくもなく、官軍の兵が攻めよせたので遂に自殺した。のこされた孤子が南の地にいたのである。母は大里按司の妹で、母の家で育てられた。幼少から才智が人よりすぐれ、父の風姿がみられた。成長するにおよび、人々は浦添按司に推した。ちよどここのとき諸島で戦が始まり、たにかいがやまなかった。按司は年あたかも二十二歳、人々をひきい、天下をひとつにただし治めて、世の乱れを肅清した。国をあけて尊んで王となえるにいたった。舜天王がこれである。文治丁未三年（一一八七）のことである

【中山世鑑】

南宋淳熙十四年（一一八七）丁未舜天王御即位
舜天尊敦と申し上げるのは、大日本人皇五十六代の清和天皇の孫、六孫王より七世の後胤、六条判官為義の八男、鎮西八郎為朝公の男子であらせられる。^②
その由来をくわしく尋ねると、大日本神武天皇から七十四代目の天皇を鳥羽院と申し上げる。五歳で踐祚された^④。御在位中十六年の間、海内は静かで天下は穏やかであった。寒さも暑さもさだめを誤らず、民の家もまことに豊かであった。保安四年（一一二三）、御年二十一で退位され、第一宮の崇徳院に讓位あそばされた。
その後、保延五年（一一三九）、鳥羽院が寵愛された妃の美福門院に王子が誕生されたので、上皇は殊にお喜びになられ、そうして皇太子にお立てになられた。永治元年（一一四一）、三歳で即位された。これが近衛院である。これによって、先帝の崇徳院を新院と申し上げた。先帝は特に病でもいらつしやらなかったのに、心ならずも皇位から下ろされたことはあさましいことであった。そこで、一院（鳥羽院）と新院父子のご関係はよくないとの風聞だった。先帝は本心から皇位を去られたのではないので、また御位におもどりになろうとのお心であったのか、それとも御嫡男の重仁親王を皇位につけようと思ひ召しになったのか、御謀叛を企てられた。

- ① 舜天王原文では題名において、王の字は無いが本書では付加した。
- ② 尊敦『中山世鑑』では舜天の神名、神号として整理されているが、『世鑑』では本文のとおり舜天尊敦と出ているだけである。
- ③ 六孫王清和源氏の始祖源経基。
- ④ 踐祚位につくこと。即位。

【椿説弓張月】（滝沢馬琴）



【歌舞伎・椿説弓張月】（三島由紀夫）



南走平家伝説

◎鹿児島県大島郡（奄美群島）

平家一門の平資盛が、壇ノ浦の戦いから落ち延びて約3年間喜界島に潜伏。弟の平有盛、いとこの平行盛と合流して、ともに奄美大島に來訪したという。2005年に平家來島800年記念祭が行われた。柳田國男は「モリ」というのは郷土の神の名であり、後世になってこの伝説は作られたのではないかと考えているが異論も多い。

喜界町志戸桶（喜界島）、奄美群島に到着した平家が最初に築いたといわれる七城跡がある。

喜界町早町、源氏警戒のため築いた城跡がある、平家森と呼ばれている。

奄美市名瀬浦上（奄美大島）、有盛を祀った平有盛神社がある、有盛が築いた浦上城跡と言われている。

瀬戸内町諸鈍（加計呂麻島）、資盛を祀った大屯（おおちゃん）神社がある。

龍郷町戸口（奄美大島）、行盛が築いた戸口城跡がある。現地には行盛を祀った平行盛神社もあるが、城跡とは離れている。

龍郷町今井崎（奄美大島）、行盛により今井権田大夫が源氏警戒のため配された。今井権現が建っている。

奄美市笠利町蒲生崎（奄美大島）、有盛により蒲生佐衛門が源氏警戒のため配された。



◎運天港（沖縄県国頭郡今帰仁村）

『おもろさうし』の「雨降るなかに大和の兵団が運天港に上陸した」とある記述は「平維盛が30艘ばかり率いて南海に向かった」という記録を基に平維盛一行のことだとされることがあり、いわゆる「**南走平家**」の祖として沖縄史では盛んに議論が行われている。

◎沖縄県宮古島狩俣

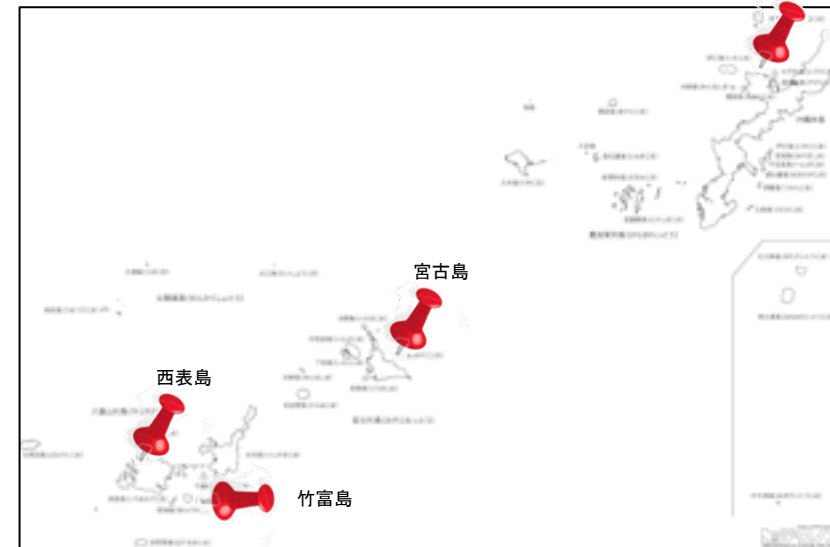
落武者の物という古刀など遺品が伝わる。また平良という地名は平家の姓に由来するものという。

◎沖縄県竹富島

赤山王は平家の落人で、竹富島に流れ着いたとの言い伝えがある。なごみの塔は居城跡とされる。

◎沖縄県西表島

16世紀初頭の豪族慶来慶田城用緒は、平家の末裔であると称していたことが知られる。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村 覚
2019/11/24

26

琉球(王)国のグスク及び関連遺産群



今帰仁城跡 (なきじんじょうあと)

13?14世紀頃に造られた、標高約100mの場所に位置する山城で、その周りは断崖になっており、難攻不落の城でした。三山時代の北山王の居城でしたが、1416年に尚巴志に侵攻され、その後は首里王府の北山監守の居城となります。

住所／今帰仁村今泊4874 電話／0980-56-4400 (今帰仁城跡管理事務所)

勝連城跡 (かつれんじょうあと)

勝連城は11世紀から12世紀頃に築城されました。城主は琉球王国に対する最も有力な按司だった阿麻和利(あまわり)の居城でした。阿麻和利は王権の奪回を図り首里城を攻めますが、大敗して滅びた。

住所／うるま市勝連町字平安名3032 電話／098-978-2227 (勝連町教育委員会)

中城城跡 (なかぐすくじょうあと)

中城城は、首里王府の命令を受けた護佐丸が、勝連城主・阿麻和利を牽制するため移り住んだ城です。城壁は地形を生かした作りになっており、その築城技術は歴史的に高い評価を受けています。

住所／北中城村大城503 電話／098-935-5791 (中城城跡共同管理協議会)

斎場御嶽 (さいふあうたき)

斎場御嶽は、琉球王国最高の聖域で、アマミキヨという神がつくった、国はじめの七御嶽の1つと伝えられています。現在も人々の信仰の対象となっており、御願に来る人が後を断たない。辺りには厳肅な雰囲気漂う。

住所／南城市知念字久手堅2サヤハ原 電話／098-948-1149 (知念村教育委員会)

園比屋武御嶽石門 (そのひやんたきいしもん)

園比屋武御嶽は、守礼門と首里城歓会門の間にあり、国王が外出する際に道中の無事を祈った場所です。石門には琉球石灰岩が用いられており、1519年に竹富島の名工・西塘(にしとう)が造ったとされる。

住所／那覇市首里真和志1-7 電話／098-853-5776 (那覇市教育委員会文化財課)

識名園 (しきなえん)

識名園は、池の周りを歩きながら景色の移り変わりを楽しむことを目的とした回遊式庭園で、1799年外国使臣の歓待や国王一家の保養のために建てられた。大きな池に浮かぶ島には中国風東屋の六角堂、琉球石灰岩で造られたアーチ橋は必見。

住所／那覇市真地御殿原 電話／098-855-5936 (識名園管理事務所)

首里城 (しゅりじょう)

首里城は尚巴志(しょうはし)によって三山が統一された1429年から1879年まで、歴代国王の居城でした。過去沖縄戦を含め4回全焼したが沖縄の本土復帰20周年にあたる1992年再建されました。

住所／那覇市首里金城町1-2 電話／098-886-2020

玉陵 (たまうどうん)

第二尚氏王統歴代の墓陵。1501年に尚真王が父、尚円王の遺骨を納めるために造った墓。玉陵は作りを首里城正殿に似せており、墓室前には獣や花などを彫った石欄が取り付けられている。

住所／那覇市首里金城町1-3 電話／098-885-2861

座喜味城跡 (ざきみしろあと)

座喜味城は15世紀の始め頃、名築城家・護佐丸によって築城されました。独特の曲線を描いて積まれた城壁は、「あいかつ積み」と呼ばれる技法です。また、アーチ型の石門は沖縄で最も古いものと言われています。

住所／読谷村座喜味708 電話／098-958-3141 (読谷村立歴史民族資料館)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村 寛
2019/11/24

グスク時代と三山時代

【沖縄の歴史区分】

沖縄県の歴史 (年表)		
先史時代	(沖縄諸島)	(先島諸島)
	旧石器時代	先島先史時代
	貝塚時代	
古琉球	↑ 日宋貿易 ↓	グスク時代 舜天即位
	三山時代	1187年
	(北山・中山・南山)	1372年
	中山王、明に入貢	1429年
近世	琉球	1609年
	第一尚氏王統	
	第二尚氏王統	
近代	琉球藩	
	沖繩県	1879年
	アメリカ合衆国による沖縄統治	1945年
戦後	沖繩県	1972年

【沖縄の歴史区分】

グスク時代（グスクじだい）は、沖縄・先島諸島および奄美群島における時代区分の一つ。奄美・沖縄諸島では「貝塚時代」、先島諸島は「先島先史時代」の後に続く時代区分である。「グスク時代」はグスクによって代表される考古学的な時代区分で、それ以前は歴史学者により「按司時代（あじじだい）」と呼称されていた。開始年代は11世紀ないし12世紀頃、終了年代は琉球王国が誕生する15世紀前半、または16世紀頃までとされ、研究者によって年代範囲が異なる。

【三山時代】

三山時代（さんざんじだい）は古代琉球の時代区分のひとつ。1322年ごろから1429年まで。沖縄本島では14世紀に入ると、各地で城（グスク）を構えていた按司を束ねる強力な王が現れ、14世紀には三つの国にまとまった。南部の南山（山南）、中部の中山、北部の北山（山北）である。三山統が鼎立する時代が約100年続いた。いずれも中国の明帝国に朝貢し交流を深めたが、南山の佐敷按司が勢力を増し、1405年に中山を、1416年に北山を、1429年に南山を滅ぼして琉球を統一した。

【グスク時代の開元通宝】

琉球弧の先史時代終末～グスク時代の遺跡から、中国の貨幣である「開元通宝」が多数出土する。1959年沖縄本島の野国貝塚で最初に発掘された当時は、後世の混入品とされた。しかし、その後各地の遺跡で出土例が増加し、当時使用されたものであることが判明した。開元通宝は621年～966年に鑄造された中国唐代の貨幣であるが、グスク時代はまだ物々交換の段階であった為、この貨幣は、



【日宋貿易】

日本では遣唐使停止（894年）の後大宰府の統制下で日唐貿易、鴻臚館貿易が行われた。越前守でもあった平忠盛は日宋貿易に着目し、後院領である肥前国神埼荘を知行して独自に交易を行い、舶来品を院に進呈して近臣として認められるようになった。平治の乱の直前の1158年（保元3年）に大宰大貳となった平清盛は、日本で最初の人工港を博多に築き貿易を本格化させ、寺社勢力を排除して瀬戸内海航路を掌握した。人的往来は公式には仏僧以外の往来が禁じられた。ただし太宰府への貿易統制権能の移管を含め、民間海商に多くが委ねられ、中央朝廷からの交易に対する統制は大きく緩んでいたと考えられる。また日宋・日麗貿易の隆盛と併せて、琉球弧の南島交易も隆盛し奄美・沖縄諸島の社会に質的な変化をもたらしたと考えられている（グスク時代の到来）。南宋は1279年に滅亡。

東シナ海を頻繁に往来する中国商船や九州の貿易船寄港の際に、交易品と交換し入手したものであろう。では、この開元通宝で何を購入したのだろうか。当時、中・南琉球は鉄器時代に突入しており、この貨幣で島外の品物、特に「鉄器とその材料の鉄塊」を購入したと考えられ、またそれに伴い開元通宝を扱う商人（中国・大和）の存在も推測されている。このように8～12世紀前後の中・南琉球では、支配者の出現する「グスク時代」を迎え、更にこの貨幣経済の導入によって、有力な権力者（按司）の出現をみたのである（木下2000；木下編2002；高宮・宋2004）。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村 寛

2019/11/24

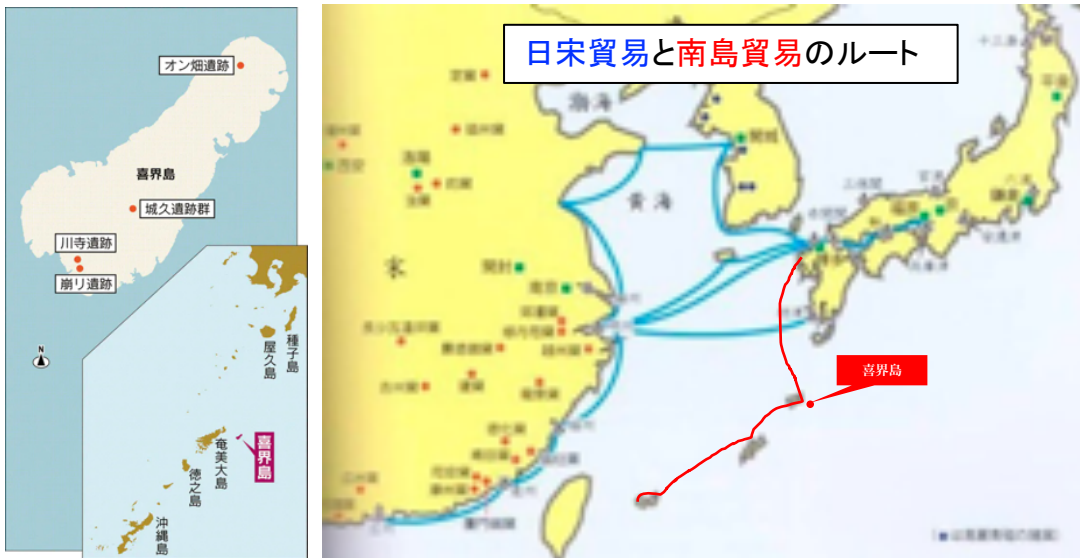
喜界島ショック=城久遺跡群（ぐすくいせきぐん）

南島史が塗り替わる 環東シナ海交易の結節点

喜界島は奄美大島の東約25キロ。島内は奄美大島がごく間近に見える至近距離にある。城久遺跡群 大規模な集落跡で、平成15年（2003年）に調査が開始された。南西諸島で初めてとなる遺物が次々に見つかる中、とりわけ注目を集めているのが製鉄炉跡だ。

最初に確認されたのは島西部の緩やかな傾斜を持つ台地上にある崩り（くずり）遺跡だ。3年前に鉄滓（さい）と呼ばれる鉄の生産や加工をする時に出る鉄くずが大量に出土。砂鉄を炉で溶かして鉄を取り出す際に流れ出る流動滓と、炉内で出来る残留滓があることが判明した。全長13メートル幅2メートルの溝の延長線上には鉄滓を排出させる円形土溝2基（直径1.5メートルと直径2メートル）を確認。さらに、粘土を固めた炉壁の破片から判断して高さ約90センチの製鉄炉があったと推測されている。出土した土器から12世紀の遺構という。この間の事情について鹿児島県喜界町教育委員会の澄田直敏埋蔵文化財係長は「愛媛大東アジア古代鉄文化研究センター長、村上恭通教授の指導を受けながら時間をかけ、慎重に調査を進めた。崩りで見つける以前に、鉄材や古鉄などを新たな鉄器に加工する鍛冶のための炉と思い込んでいた大ウフ遺跡でも再検討を行ったところ、より大がかりな製鉄関連の遺物や遺構であることが分かった」と説明する。

島中央部の高台に位置する城久（ぐすく）遺跡群は9世紀から15世紀にかけて本土や南西諸島、中国大陆、韓半島との交流を示す土器や陶器、磁器などの遺物が大量に発見されている。その中の大ウフ遺跡では、15平方メートルの範囲で製鉄や鍛冶関連の遺構が20基集中して見つかった。高温で熱せられた焼土跡には独特の厚みと被熱度が現れており、炉壁を立てた製鉄炉があったと推測されている。精錬から鍛造、鉄器製作までの一連の作業が集中して行われていたようだ。炭素年代測定などから10～12世紀前半頃の遺構とみられる。



■特異な歴史的な位置

『日本紀略』の長保元年（999年）8月19日の記事に記載されている、太宰府が追討に成功したという貴賀島の南蛮ははキカイガシマで喜界島のことを示すと考えられており、史料上に初めて10世紀末には日本の「内側」だったが、12世紀には「外側」の異国としてとらえられていた。『吾妻鏡』によると、天皇から譴責（けんせき）を受けた平忠景がキカイガシマに逐電したほか、源義経一味が隠れているとの疑念などから源頼朝はキカイガシマを征討、地頭職を設定した。だが、『漂到琉球国記』の記述などから13世紀も異国との認識は続く。なお、俊寛らが流された「鬼界ヶ島」は鹿児島県三島村の硫黄島というのが永山教諭の見解だ。

14世紀には沖縄に琉球国が形成され、15世紀には薩摩と琉球の間に奄美大島や喜界島を巡り争いが起こる。奄美大島は1441～1446年ごろ琉球に降伏。喜界島は戦い続け1466年に琉球の支配下に入る。薩摩ほか南九州の諸勢力の支援を受けることで持ちこたえることができた可能性が高いこうした歴史的な文脈を踏まえると、喜界島で12世紀に製鉄が行われたことの意味合いをどうとらえればいいのかのさうか。

永山教諭は11世紀後半から12世紀にかけて島外から得た大量の貴重な遺物が出土していることなどから「喜界島で生産した鉄を、奄美諸島や沖縄諸島に流通させることで、対価としての南島産品（夜光貝、法螺貝、赤木等）を獲得し、それを九州以北へ売ることによって利益を得ていた勢力があった」ことに着目。「その影響は琉球王国形成の問題にかかわってくるのだろう」と話す。

本土では稲作と鉄器の流入によって縄文から弥生に時代が大きく転換したように、鉄器は人々の暮らしを一変させる。村上教授は「王国が成立する以前の沖縄でも鉄と米は重要な必要物資だったろう」と指摘。「本土では考えられないほど鍛冶炉が多く、製鉄まで行う集中生産をしており、喜界島にとって鉄は沖縄に対する重要な戦略物資になっていたのではないかと推測する。鉄器を安定的に手に入れる手段を確保した勢力が琉球王国の成立に大きな影響を与えたことは想像に難くない。（2015/8/28 日経エンタメ歴史博士より引用、執筆 本田寛成）



歴史を覆す発掘(1/2)

勝連城跡で古代ローマ銅貨出土 国内初

(沖縄タイムス 2016年9月27日 08:08)

報告された貨幣状の出土遺物は計10点で、すべて鍛造(たんぞう)(金属をたたいて成形する方法)製の銅貨。2013年度に実施した城跡南東側に位置する場所(四の曲輪東区)の遺構調査で確認された。

専門家や文献による検討を踏まえ、10点中4点はローマ帝国、1点はオスマン帝国の貨幣であることが判明した。そのうち、2点のローマ帝国貨幣は推定14~15世紀、1点のオスマン帝国貨幣は推定17世紀の地層から確認されている。残り5点は時代や国が不明。

特定された貨幣の大きさは、最大がオスマン帝国のもので直径約2センチ、最小で直径約1.6センチ。分析の結果、表面にはローマ文字やアラビア文字、コンスタンティヌス1世の肖像などがあしらわれているとしている。

市教委は、国内の遺跡からローマ、オスマン帝国の貨幣が確認されるのは初のケースだろうと説明。勝連城跡に関わる何らかの人物が、交易や交流などにより東アジア世界を経由して入手した可能性があるとして、今後経路の検討作業を進める予定。

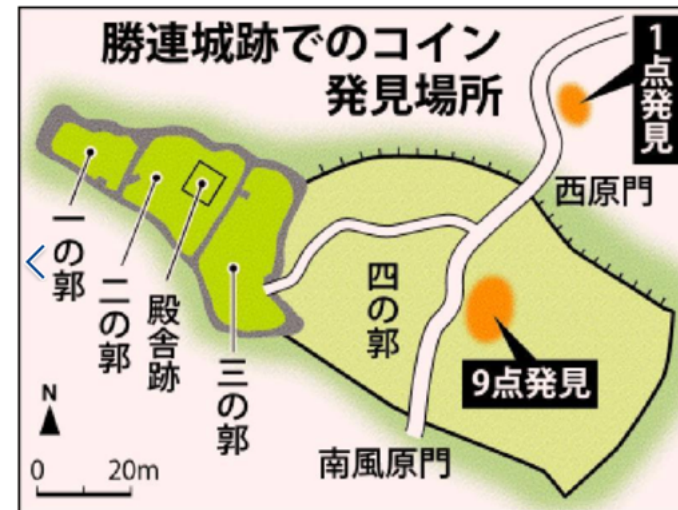
会見に同席した同市の島袋俊夫市長は「西洋世界に関わる資料は、現在まで県内で発見されていない。琉球史と日本史のみならず、世界史研究全般の進展に大きく寄与する重要な発見だ」と意義を強調した。

市教委は11月25日まで、市立与那城歴史民俗資料館で「2016年度発掘調査速報展」(主催・同市教委)を開催し今回の出土資料を紹介している。問い合わせは同資料館、電話098(978)3149。

【勝連城跡】 沖縄県うるま市にあり、1972年に国史跡に指定された。12~13世紀に地域の豪族によって築城され、14~15世紀には海外交易で栄えた。琉球王国が沖縄全体を治めていく過程で、1458年に10代目城主の阿麻和利(あまわり)が王府軍に敗れ、廃城した。その後、17世紀ごろまで地域の人々が利用していたとされるが、詳細は不明。

【ローマ帝国】(紀元前27~1453年) 古代、地中海沿岸を中心に、周辺地域を領土としたラテン人の国家。最盛期には地中海沿岸全域に加えダキア、メソポタミアなど広大な領域を版図に持った。

【オスマン帝国】(1299~1922年) 約600年、現トルコのコンスタンティノープルを中心に栄えた多民族のイスラム国家。オスマン朝トルコとも呼ばれる。



歴史を覆す発掘(2/2)

世界最古の釣り針、沖縄で発見 2万3千年前の貝製

(沖縄タイムス 2016年9月20日 05:00)

沖縄県立博物館・美術館（田名真之館長）は19日までに、沖縄県南城市の観光施設「ガンガラーの谷」にあるサキタリ洞遺跡で、世界最古となる2万3千年前（後期旧石器時代）の貝製の釣り針を発見したと発表した。同館によると、旧石器人が水産資源を取るための道具の発見は国内で初めて。また今まで発見された人骨や動物遺骸が3万5千～3万年前のものとする分析結果も紹介。旧石器人が同時期に沖縄島に渡来し、継続居住したことを示す成果だとしている。出土したのは、ニシキウズ科の巻き貝の底部を割り、磨いて作った小型の釣り針で、幅約14ミリの完成品1点（約2万3千年前）と未完成品の先端部1点（2万3千～1万3千年前）。地表から約1メートルの深さで確認された。

これまで東ティモールの遺跡で発見された2万3千～1万6千年前の釣り針が世界最古とされてきたが、今回発見された釣り針はそれと同列の世界最古のものだが、保存状態がよく、年代の確実さが高いという。

同館によると、日本の旧石器時代に、釣り針などの道具を使って漁労活動をしたことを示す遺物は見つかっておらず、今回の発見でその暮らしが初めて明らかになった。

合わせて、2010年5月に発見された同遺跡の最古の人骨（幼児部分骨）は約3万年前のものだったことや、食料とみられるモクズガニやカワニナ、焼けたシカの化石が約3万5千年前の遺物だったとの検討結果も紹介。沖縄島への人類の渡来が、3万～3万5千年以上前である可能性がある」と説明した。

遺跡からは、これまでに約1万4千年前の石英製石器や約2万年前の貝器なども発見されており、同館では遺跡での居住の証拠が約2万年にわたり続いているとしている。同成果は、米国科学協会紀要（P N A S）に掲載される予定。

■国内最古の発見相次ぐサキタリ洞遺跡

サキタリ洞遺跡では国内最古の発見が相次いでいる。国内最古（2万3千～2万年前、旧石器時代）の貝製のビーズ（装飾品）と道具が発見されたほか、同じ地層から人骨も見つかった。道具と人骨が同じ時代の地層から出土し、人類の活動痕跡が確認された例としても国内最古となった。

ほかにも、9千年前より古い地層から、埋葬された可能性のある人骨が見つかった。

沖縄では旧石器時代の人骨が多く見つかっており、サキタリ洞の近くにある「港川フィッシャー（割れ目）」からは、2万年以上前の化石人骨「港川人」が出土している。



沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡で出土した世界最古となる約2万3千年前の釣り針＝17日、那覇市の県立博物館・美術館



幼児環椎

約3万年前のものと思われる人骨＝17日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館